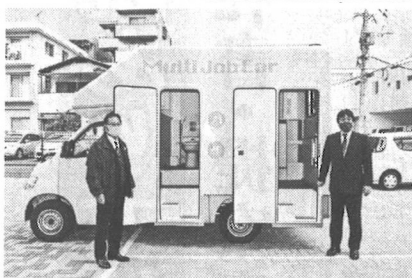


『マルチJobCar』を開発

日本道路
グループ エヌディーリースシステム

建設現場労働環境改善へ

トイレと事務室完備



程度の契約を目標にしている。

同社はこれまで、16年に移動事務車両「デスクカー」、18年に自走式仮設水洗トイレ

「ToiletCar」のリースを展開しており、いずれも国土交通省の新技术情報提供システム・NETISに

登録されている。「マルチJobCar」はこの2台の機能を集約した車両となっており、福岡県

内のメーカーの協力で開発した。トイレは水洗の

洋式便座で、手洗い場や収納棚も完備。16年に国土交通省が定めた快適トイレの仕様となっ

ている。事務室は2人での打ち合わせが可能なスペースを設けており、休憩や仮眠もできる。室内はエアコン、冷蔵庫、簡易ベ

ッド、ACコンセントなども完備する。ベース車両はトヨタのタウンエース（1500cc）で、全長4・45m、幅2・07m、高さ2・8m。

NETIS登録に向けた申請も行う予定。

「マルチJobCar」は、建設現場で働く職員

向上をコンセプトとする。女性の作業員が増えている建設現場で、熱中症対策など労働環境改善

の効果が期待されるほか、大規模自然災害時には現地でサポート車両としての役割も果たすという。

同社は今後、要望に応じてデモカーの見学会などを全国で行う予定。兼子社長は「マルチJobCarが、建設現場の労働環境の改善につながることを期待している。災害時にも活用できる車両を通じ、当社は今後も地域社会への貢献に努めていきたい」と話している。

日本道路グループのエヌディーリース・システムを開発し、年間20台

日本道路グループのエヌディーリース・システムを開発し、年間20台